

◎ 解答は解答用紙に書くこと。(氏名は書かないこと)

字数制限のあるものは、句読点などの記号も字数に含む。

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

受 験 番 号

世の中の人々が悩むものは、そのほとんどが人間関係だ^①という。自分と他者との間に起^aこる問題のソウ称^aである。自分は周囲からどう見られているか、あるいは、何故自分^{なせ}は誤解されるのか、と大勢が悩む。とにかく、「嫌な思いを少しでもしないで生きていきたい」という願望を、誰もが持っている。これは、おそらく社会に生きるほとんどの人に共通する心理だろう。

お金なんかいららない、ただ自由気ままに生きていきたい、と言う人もいるが、お金を儲ける^{もち}ことに拘^{かまわ}る人は、自由気ままに振舞うためには金が必要だと考えているか、あるいは、その人の自由気ままな行為自体に金がかかる、ということであって、結局のところ、お金^aどうこうではなく、「自由に生きたい」ということは変わりはない。抽象的に見て両者は同じだといえる。また、自由気ままというのは (A)、嫌な思いをしない状態のことであるから、「楽しい思いだけをして過^aごしたい」というほぼ一致した願望になるだろう。

(B)、いろいろな現実を経験するうちに、「この『楽しい思い』というのは、ある程度の苦勞のさきにあるものだということがわかってくる。ここが人間の複雑なところである。たとえば、負けるよりも勝つ方が楽しく望ましいことだが、では、苦勞もなく簡単に勝つことと、工夫や努力の末に勝つことのどちらが良い気持ちになるかといえは、だいたいの人が後者だと感じるはずだ。

こういった経験を重ねると、法則として導けるほどになる。すなわち抽象すると、「^a」「^b」^a「^b」^a「^b」^aというような感じになるだろうか。そのうち、勝ち取れる未来を見越して、その苦勞の最中であつても楽しめるようになる。これなどは、明らかに想像力が見せる幻想といえるもので、人間というのは、幻想によって元氣を出している、といつても良いかもしれない。

人間関係というのは、多くの場合、他者との協力関係と言ひ換えることができる。お互いに得るものがあつて、交換したり、分かち合つたりしている。仕事であっても、また趣味や近所づき合い、友人、恋人、あるいは家族であつても、抽象するとだいたい同じである。逆にいえば、協力関係ではないものは、既に人間関係ではない。いがみ合つているだけのよう場合は、その関係から離れば済むことである。離れられない理由がどちらかにあるから、関係というものができる。

人間関係においても、「楽しさ」には、ある程度の苦勞が必要となる。我慢^{がまん}をして初めて得られる、という関係だ。得られるものがわかつているから我慢ができることもあれば、また、我慢をしていたら、思いのほか素晴^{すば}らしいものが得られることもある。さらには、そういった損得を考えず、我慢をするだけで(尽くすだけで)満足できるという心境に至るような場合だつて少なくない。

さて、「我慢をする」と簡単に言つても、そこにはやはり最低限の「理解」が必要になる。「ああ、この人はきつとこんなふう^aに考えて、こんな態度を取っているのだな、まあ、このくらいのことではしかたがないか」というように、自分で納得するから、人を許すことができるようになる。「どうしてこんな馬鹿^{ばか}なことをするんだ?」と怒つてしまう人は多いが、少なくとも「どうしてか」が理解できないから腹が立つのだ。それが理解できれば、「そんな理由があれば無理もないか」と考えられるし、「それならば、どうしてはどうか」という手が打てることも、あるいは、「少し待てば、好転するかもしれない」としばらく時間を置くような対処もできる。冷静さに必要なのは、この「理解」なのである。

人を理解するというのは、その人との対話によつても可能だが、会話があつてもわからないときもあるし、また、会話がなくても、想像によつて理解することもできる。

多くの人は、自分がどんな感情を抱いているか、ということ^aを明確に捉え(自覚^{せいかく}し)ていないので、対話をして、その本人の口から言葉を引き出しても、その人の気持ちの本当のところはなかなかわからない。本人もわからないのだから、適切に表現ができる道理がない。

それ^④よりも、その人の行動、過去の履歴などに基ついて、カ^b説を立て、「きつとこう考えているのだろう」と想像すること、理解ができる場合の方が多い。「そんなの勝手な理解だ」と言われるかもしれないが、そのとおり勝手な思い込みである。もしかしたら、まったくの誤解かもしれない。でも、「まあ、良い方に考えて、ここは引き下がるう」といったジェントルな選択だつてできる。たとえ誤解だつたとしても、それで自分が納得できれば良い、と僕は考えることにしている。

(中略)

「他人がどう考えるかを想像する」ことを、日本語では「人の身になって考える」という。自分の都合の良い主張をするのは簡単だが、それを聞いた相手はどう感じるのかを予測しておくことは、一つには「思いやり」であり、また逆に考えれば、相手の反応を見越して、より有効な表現を選択するという戦術が取れるわけ^cで、自分にとつても非常に有利となる。

相手の身になつて考えるという場合、それは、もし自分が相手の立場だつたら、どう感じて、どう考え、どう対応するだろうか、ということが基準になっている場合も多いだろう。相手がどんな人間なのかわからないときには、ひとまず、自分に置き換えて考えるしかない。すなわち、相手の傾向を推定するとき、常に自分

が基準になっているのである。

(C)、人を観察する以前に、自分に対する観察がまずなされている必要がある。人の思考を分析し、その反応を予測するためには、自分の思考の過程や反応の傾向を参考にすることができる。

どう感じるのか、という感覚的なものは、誰もが「自分」でしか体験できない。ようするに、人間は「自分」しか経験したことがないのである。言葉や行動などで外部に表れ観察できる感情はほんの一部であって、感じたことの大部分は自身にしか知られない。また、感じることも同様に、考えることも、自分でしか体験できない。人が考えているとき、その頭の内部を覗き見ることはできない。したがって、他者がどう考えるのかを想像するには、自分がどう考えるのかをよく観察していることが不可欠となる。

これは、「視点」といったものでも同じで、客観的な視点を持つには、まず主観的な自分の視点がどういうものを把握する必要がある。抽象的なものを捉えるためには、排除すべき具体性を知っていなければならない。いずれも、囚われないためには、囚われているものを、あるいは囚われている状況を、しっかりと見極める必要があるからだ。

⑥ 他者を抽象化するときには、その人物が持っている傾向をどう解釈できるのか、が問題になる。その場合、「自分ならばこう考えるけれど、どうやらあの人はそうではなさそうだ」という具合に、まずは自分との違いとして目立った「トク」徴が観察できる。そして、何故違った考えをその人は持つのか、それは前提となるものが異なっているからだろうけれど、では、何故前提が違っているのか、どこで違ってくるのか、とつぎつぎに考えが及ぶことになるだろう。

(森 博嗣『人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか』より)

問一、傍線部 a～d のカタカナと同じ漢字を使う熟語を、それぞれア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---------|--------|-------|-------|-------|
| a 「ソウ」称 | 「ア 仮ソウ | イ ソウ失 | ウ ソウ合 | エ ソウ業 |
| b 「カ」説 | 「ア カ空 | イ カ眠 | ウ カ格 | エ カ学 |
| c 「ヨ」測 | 「ア ヨ地 | イ ヨ金 | ウ ヨ論 | エ ヨ定 |
| d 「トク」徴 | 「ア トク技 | イ 道トク | ウ 説トク | エ 監トク |

問二、(A) (B) (C) に当てはまる語を、次のア～オの中からそれぞれ選び記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-------|--------|------|-------|-------|
| ア だから | イ なぜなら | ウ また | エ つまり | オ しかし |
|-------|--------|------|-------|-------|

問三、傍線部①「人間関係」において筆者が最も大切だと考えているものは何か。次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ア 我慢 | イ 想像 | ウ 対話 | エ 理解 |
|------|------|------|------|

問四、傍線部②「抽象」の対義語を、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| ア 客観 | イ 主観 | ウ 具体 | エ 実体 |
|------|------|------|------|

問五、傍線部③「後者」とは何を指すか。次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ア 苦労することなく簡単に勝つこと。 | イ 工夫や努力をした結果勝つこと。 |
| ウ 自由気ままに生きること。 | エ 勝つために苦労すること。 |

問六、「一」に当てはまるものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | |
|--------------------------------------|
| ア 「楽しさ」というのは、 <u>苦労を重ねて勝ち取るものだ</u> 」 |
| イ 「楽しさ」というのは、 <u>苦労せずして勝ち取るものだ</u> 」 |
| ウ 「苦労」というのは、 <u>楽しさの中から勝ち取るものだ</u> 」 |
| エ 「苦労」というのは、 <u>楽しく工夫して勝ち取るものだ</u> 」 |

問七、傍線部④「それ」とは何を指すか。本文の言葉を用いて五字で答えなさい。

問八、傍線部⑤「相手の身になって考える」とはどうすることか。本文中から十一字で抜き出さなさい。

問九、傍線部⑥「他者を抽象化する」の説明として最も当てはまるものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | |
|-------------------------------|
| ア 他人を観察・分析し、自分との違いを明確にすること。 |
| イ 他人の言動からその人がどのようなタイプか把握すること。 |
| ウ 他人の言動を自分の感情に照らし合わせて納得すること。 |
| エ 他人がどう考えて行動しているのかを簡潔にまとめること。 |

問十、本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- | |
|--|
| ア 人は一人では生きていけないので、人間関係は他者との協力関係と言い換えることができる。 |
| イ どのような場面でも物事を抽象化して考える、つまり、型にあてはめることが大切である。 |
| ウ 相手の身になるということは、他者のためにもなり、自分のためにもなる行為である。 |
| エ 相手の気持ちは絶対に分からないので、自分の気持ちを考えて行動することが大切である。 |

二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

ちなみにおれはバスケット部。マンガ『スラムダンク』にあこがれたのと、ボールが体育館の床を打つ、ターンターンという響きが好きだったのと、もうひとつ、背が高いから有利かもというあまい考えのもとに入部した。

ところが、とんでもなかった。

運動神経がよくてちよこまか動く小さいやつに全部持たれて、ボールにさわることさえできない。まるでボールが手に吸いついたようなドリブルをする相手を追って、どたばたとコートを走りまわっていたら、「おまえはうどの大木か！」って監督からどなられた。「担任は大木先生ですけど」ってごまかしたら、激怒された。

それ以来、なにかというと監督はおれのことを目の敵にする。

——いつてえ。

ボールを投げつけられ、はれあがつたくちびるをなめながら、ようやくなんとか部活を終えて帰宅したら、家がどえらいことになっていた。リビングで姉ちゃんが食卓につつぷして号泣していた。

テーブルをはさんだ前のいすにすわっているのは、なんと保険屋の今井さん！

「ちわ」

軽く頭をさげる。その場にとどまるべきか自室に引きあげるべきか迷いながら、おれは頭をフル回転させて状況分析につとめる。

またオカンが事故った？ でもなんで姉ちゃんが泣いてるわけ？ ひよ、ひよっとして、死んだ？

そこへ茶を持ってぬっとあらわれたオカンを見て、おれは腰をぬかしそうになった。うわっ、でた！ ……なんだ、元気じゃん。

「じゃま。なにゆうれいでも見たような顔してつつ立って。そののいて」

めちやめちや嫌嫌が悪い。

姉ちゃんはお寺さんがやっている保育園で保育士をしている。こんな時間に家にいることはない。春に短大を卒業して就職したばかり。車で通勤している。

え？ もしかして、姉ちゃんが事故った？

ふりかえると、オカンが（ A ）（目で合図している。

——そうなんよ、こまったことになったの。

どちらかというと色黒のオカンの顔が心持ち青ざめている。いつもの自分の自損事故のときの鼻息のあらさは明らかに違う。ひよっとして、人身事故？

おれは居すわることにして、テーブル脇のソファにあさく腰をおろした。

「辛いなことに、けがは足の小指の骨折だけだったんですが、親御さんがひき逃げだと騒がれてまして……」

姉ちゃんの泣き声がおさまるのを待って、いいにくそうに今井さんは話しはじめた。

ひき逃げえー、まさか姉ちゃんが？ うそ、それって犯罪じゃんか。姉ちゃん、逮捕されるのか？ おれはソファの上で飛びあがった。

ひき逃げという言葉から連想される極悪のイメージと、目の前で泣いている姉ちゃんとのあまりの落差に、頭が思考停止に陥った。 （中略）

おれが小学生のころ、中学生だった姉ちゃんはいばりっぱりの反抗期だった。

日夜オカンとバトルをくりひろげていて、そのころのオカンの興味関心の95パーセント以上は姉ちゃんにいつていたから、おかげでおれはのびのびした小学生生活を堪能することができた。その点では、おれは姉ちゃんに感謝している。

その姉ちゃんが、ひと晩でひとが変わったようになったのは、高校生になってファミレスでバイトをはじめて間もないころだった。

クリスマスイブの夜だった。「クリスマスぐらいは残業しないで早く帰ってよ」と、オカンから厳命されていたオトウもいて、姉ちゃんこそぬけていたけど、ケーキを真ん中にめずらしく家族チックな夜だった。

そこに、目を真っ赤に泣きはらした姉ちゃんがバイト先から帰ってきた。

「ど、どした！」

缶ビールひとつで真っ赤になっていたオトウの顔が、（ B ）（責めめた。

「べこのどこつやー！」

いつも暗い夜道をひとりで自転車で帰ってくる姉ちゃんを心配していたオトウは、瞬間湯沸かし器みたいに沸騰して玄関に走った。

「ち、ちがうよー！」

食卓につつぷした姉ちゃんの頭の天使の輪が、電灯の明かりにふるふるゆれていた。その光景をなぜかおれは、いまでも（ C ）（覚えている。涙をかんだり、涙をふいたり、しよっちゅう中断される姉ちゃんの話はわかりづらかった。

夜の八時過ぎ、イブを祝うカップルや家族連れでにぎわう店内に、小さな男の子がひとりではいつてきた。年は幼稚園の年長さんくらい。

あとから誰かおとながくるかどうかだったが、誰もはいってくる気配はない。外はそうとう冷えこんでいるというのに、薄手のトレーナー一枚だ。

「こちらのお席どうぞ」

いぶかりつつ禁煙席の一番奥に案内した。

その後、気にはなったものの、あちこちのテーブルから鳴る呼びだし音に忙殺された姉ちゃんは、いつのまにか男の子の存在を忘れかけていた。すると、ピンポン

ひときわ高い呼びだし音が鳴ってかけつけると、その子が待ちくたびれたようすで、長いすにポツンとすわっていた。その姿はいつそう小さく見えた。

「あー、遅くなってごめんね」

マニユアルを忘れてつい素の言葉がでた。心細い思いをさせてしまったと胸が痛んだのだ。

「なににいたしますか」

やさしく問うと、男の子は不機嫌そうにメニューのキッズミールを指さした。いつしよにのぞくふりをしながら、耳元でたずねた。

「お父さんか、お母さんは？」

「おじい」

肩を怒らせたその子は、「それがどした」といいたげに、キツと姉ちゃんをにらんだ。その目の強さに、

「ドリンクはセルフになっておりますので、ご自由にお取りください」

早口でいいおいてさがりながら、姉ちゃんはものすごく動揺してしまった。こんな小さい子がひとりでかわいそうという、こっちの安っぽい同情を見透かされたような気がしたのだ。^⑦そんなものを寄せつけない強さが男の子の目にはあった。

それから以後は、その子のことが気になって気になって、しかたがなかった。キッズミールのおまけのはいったバスケットを持って、ふたたび男の子の席にいった。

「どうぞ好きなものをお取りください」

バスケットをさしだと、その子はいかにもうれしそうに迷った末、青いミニカーを選んだ。その子どもっぽいしぐさに、思わず D () した。

そのうち、シートでつながった隣のテーブルに、四歳くらいの男の子を連れとお父さんが入店し、いつのまにかその男の子とふたりでミニカーで遊びはじめた。やっぱりひとりで退屈してたのだろう。

そんないじらしい男の子のようすを横目でうかがっているうち、なぜか突然、姉ちゃんの胸にもものすごく熱い感情がこみあげてきた。仕事にもかかわらず涙ぐみそうになった。

——ああ、生きるって、せつない。どんなに小さくても、どんなに弱ちくても、生きる切実さは、おとなも子どもも平等だ。この子は必死で自分の今を生きている。そして、気がついた。

——ああ、うちはあまつたれた。友たち関係がうまくいかない？ それがどした！ オカンが口うるさい？ それがどした！ うちは、この子ほど真剣に毎日を生きていたか？

恥ずかしくてたまらなくなった。

そのうち、「バイバイ」と手をふって、楽しみに父子連れが帰り、続いてその男の子がレジカウンターの前に立った。

「ありがとうございます。四百九十九円です」

姉ちゃんがいうと、男の子は伸びあがるようにして、小さな手ににぎりしめていた五百円玉をカウンターにおいた。硬貨はその子の体温で、すっかりあたたかくなっていた。

そのまま立ち去るかと思ったら、男の子はきらきらした瞳で姉ちゃんを見あげて、突然聞いたんだそうだ。

「お姉ちゃん、サンタさん？」

「くっく」

そういえば、イブのその日は制服のかわりにサンタの赤い衣装を身に着けていた。 (八束 澄子『オレたちの明日に向かって』より)

問一、(A) () (D) に当てはまる語を、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア ほっと イ さかんに ウ くつきりと エ さつと オ まったく

問二、傍線部①「うどの大木」の使い方として正しいものを、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 子供の頃は小さいほうだったのに、今はこんなに背が高くなり体重も増えてうどの大木みたいだね。
イ こんなに立派なコンピュータがあるのに使いこなせないなんて、このコンピュータはうどの大木と一緒だね。
ウ 彼はユーモアもあつて仕事熱心だからあちこちで活躍している。まるでうどの大木みたいなやつだね。
エ 彼は体も大きくて健康なのにちっとも働かない。彼のような人をうどの大木っていうのだね。

問三、傍線部②「号泣」とはどのような泣き方のことか、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア しくしく泣くこと。 イ 大声を上げて泣くこと。 ウ すすり泣くこと。 エ 顔を真っ赤にして泣くこと。

問四、傍線部③「頭が思考停止に陥った」とはどのような状態か、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 考えることを忘れた状態。 イ 何も考えられない状態。 ウ 考えることがない状態。 エ 何も考えようとしないう状態。

問五、傍線部④「ひと晩でひとが変わったようになった」とあるが、このような状況を表現する四字熟語として当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 心機一転 イ 五里霧中 ウ 七転八起 エ 朝三暮四

問六、傍線部⑤「瞬間湯沸かし器みたいに沸騰して玄関に走った」に使われている表現技法を、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 体言止め イ 倒置法 ウ 直喩 エ 擬人法

問七、傍線部⑥「胸が痛んだ」とあるが、このことは「姉ちゃん」の言動にどのように表れたか。該当する箇所を本文中から二つ抜き出さなさい。

問八、傍線部⑦「そんなもの」とは何か、本文中から六字で抜き出さなさい。

問九、傍線部⑧「恥ずかしくてたまらなくなった」とあるが、その理由を簡潔に説明しなさい。

問十、傍線部⑨「きらきらした瞳」とあるが、この時の男の子の気持ちとして最も当てはまるものを次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 悲しい気持ち。 イ うれしい気持ち。 ウ 期待する気持ち。 エ 不安な気持ち。

問十一、傍線部⑩「制服」と同じ構成の熟語を、次のア～エの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ア 上下 イ 満足 ウ 着陸 エ 色紙

三 次の各問いに答えなさい。

問一、次の各文の傍線部を「 」内に示した敬語に直す場合、正しいものをそれぞれア～ウの中から一つ選び記号で答えなさい。

- ① 明日は、待ちに待った修学旅行だ。〔丁寧語〕
ア 修学旅行である。 イ 修学旅行です。 ウ 修学旅行に参ります。
② 先生が来週の予定を言う。〔尊敬語〕
ア 言います。 イ 申し上げます。 ウ おっしゃる。
③ おばさんからお菓子をもらった。〔謙譲語〕
ア いただいた。 イ くださった。 ウ もらいました。

問二、次の各文の（ ）に当てはまる言葉を、後のア～カの中からそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① たとえみんなから笑われ（ ）（最後までやりとげるつもりだ）。
② おそらく彼は来ない（ ）（ ）。
③ まさか彼が約束をやぶるなんてことはある（ ）（ ）。
ア だろウ イ らしい ウ ても エ ようだ オ そうだ カ まい

問三、次の各文がA・Bの意味になるように、それぞれ読点を一つずつつけなさい。

- ① 大きな池の魚を捕まえた。
A 大きいのは魚。 B 大きいのは池。
② 美しい髪の子をつれた女性に会った。
A 髪が美しいのは女の子。 B 髪が美しいのは女性。